

令和6年3月定例会議 一般質問

11番議員 前田 せつよ

高齢者福祉に直結した更なる施策を

高齢者が住み慣れた地域で、その人らしく笑顔で暮らしていくために次の項目を問う。

- (1) 高齢者となり、免許証返納後の移動手段について、多くの方は足膝の痛み等から、ふらつきが心配で自転車の運転を躊躇する。  
そこで、移動手段を確保するために、安定感のある「シルバーカー（高齢者用手押し車）」を購入したいが、高額なので費用の一部を補助して欲しいとの町民の声がある。町の考えは。
- (2) 加齢に伴い、手足のしびれや老眼が進み、「役場窓口で手続きのために字を書くことは負担で憂鬱になる」と町民の声を聞く。  
取組みとして、事務の効率化が図られることから、「書かない窓口」の設置が必要と考えるが。
- (3) 超高齢社会において2025年には、65歳以上の5人に1人が認知症になると言われている。  
近年、認知症に伴い介護をする人、される人が笑顔になる手法として、科学的にも注目されている「ユマニチュード」という介護技法がある。ユマニチュードとは、フランス語で「人間らしくある」という意味を持ち、介護をする時のコミュニケーションを一連の手順で編み出した効果の高い技法である。  
町民等に対して研修や講座を行いその介護技法を普及啓発する考えは。